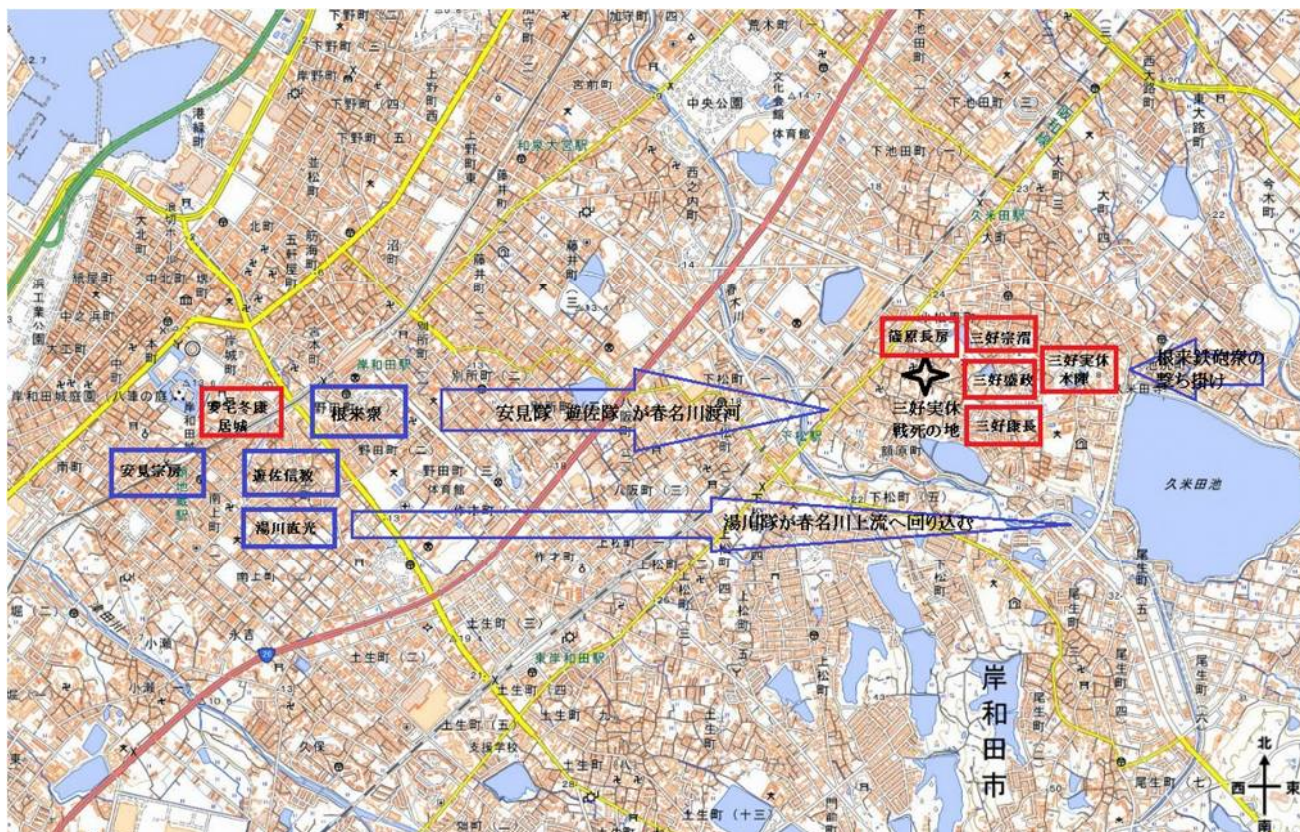


久米田の戦い

メモ)鉄本 2022.11.04

三好実休が戦死した「久米田の戦い」の概要をまとめました。

1. 三好軍及び畠山軍の布陣と動き



2. 登場人物の概要

(1) 三好軍

- ①三好実休 1527年?～1562年 三好元長の次男 改名:之相→之虎→実休 堺の茶人と交流
- ②篠原長房 生年は不詳～1573年 三好実休の重臣 実休戦死後は、三好長治(実休の長男)に伺候
- ③三好康長 生年は不詳～没年不明 三好長秀の次男 改名:康長→康慶→笑岩(法号)
主君:三好元長→長慶→義継(十河一存の子)→...→織田信長→豊臣秀吉
阿波岩倉城主、河内高屋城主 信長の四国攻略に貢献
- ④三好宗渭 1569年?～1615年? 三好政長(長慶の大叔父)の長男
改名:政勝→政生→宗渭(出家名) 当初は父政長に従い長慶と対立が、後に長慶の家臣となり、長慶の勢力拡大に貢献。三好三人衆の一人。
- ⑤三好盛政 生年・没年は不明 三好実休家臣。実休死後は、実休の子長治に仕える。

(2) 畠山軍

- ①畠山高政 1527年(一説に1531年)～1576年 畠山政国の嫡男 紀伊・河内の守護大名
一時は三好長慶と同盟を結んだ。河内国は守護代の遊佐氏が実質的に支配していたため、紀伊国に拠点を置いた。

- ②安見宗房 生年・没年は不明 畠山氏の家臣 飯森山城主 1565年頃に遊佐を名乗る。
一時は畠山高政と戦い破れて大和に逃れ、その後高政と和解。
- ③遊佐信教 1548年～1574年 河内国守護代の遊佐長教の子。尾州畠山氏の重臣。
- ④湯川直光 生年不明～1562年 室町幕府奉公衆の湯河光春の子。和歌山県田辺市が本拠地。
1562年の「教興寺の戦い」(三好長慶 VS.畠山高政)で戦死。

3. 戦の経過

- ①六角義賢と畠山高政らが挙兵 (京都では、「將軍地蔵山の戦い」が同時に開戦)
- ②1561年、畠山高政を総大将に安見宗房、遊佐信教、根来衆が岸和田城(安宅冬康が守備)を包囲
- ③岸和田城への援軍として、三好実休を総大将に篠原長房、三好康長、三好宗渭、三好盛政を救援派遣
三好軍は貝吹山(古墳)に布陣
- ④畠山軍が春木川を渡河し両軍が戦闘状態に。三好軍篠原隊と三好実休本陣との戦線が伸び隙間発生。
- ⑤畠山軍湯川隊が春木川上流に廻り、篠原隊の背後に回る動き。実休が援護のため三好各隊を前線に投入。
- ⑥実休本陣が手薄になる。根来鉄砲隊が本陣背後から攻撃。実休隊態勢が崩れ実休戦死し三好軍総崩れ。

4. 周辺の史跡

(1) 三好実休本陣跡(貝吹山古墳)

【古墳の概要】 4世紀後半の前方後円墳(墳丘長:130m、後円部は径75m、3段築成。)

周濠があり、後円部には土橋がある。埋葬施設は盗掘され破壊されている。

「久米田の戦い」では、三好実休が本陣を築いている。



周濠



後円部



後円部墳頂

(2) 三好実休戦没の地(石碑と墓石?)



場所:岸和田市小松里町 (満願寺より東へ20m)

実休本陣が久米田池方面からの根来衆鉄砲隊の攻撃を受け討死。